

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しい時代に対応できるよう、思考力・判断力を身につけ、心豊かな人間性を育む学校をめざす。

- 1 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「人をつくる」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長を実現し人格の形成をめざす。
- 2 すべての教育活動において、きめ細かい指導を行い個性や能力を伸ばし、自立にむけて必要とされる基盤や他者を思いやる心を育成する。
- 3 学校行事や部活動への積極的参加を促し情操面を豊かにし、試行錯誤の中から問題の発見・解決できる力を育成する。

2 中期的目標

【1】 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する。

(1) 私学の独自性

- ア) 建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行う。
- イ) 入学式・卒業式・全体集会などの取り組みを通じて、建学の精神や教育理念について生徒の理解を深める。
- ウ) 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。
※ 教員の評価アンケートにおける「建学の精神の理解」の目標値は4.2以上とする。

(2) 生徒のニーズに対応したクラス編成

- ア) 生徒の多様なニーズに対応し、令和3年度より新たに3年コース(発展文理クラス・発展探究クラス)として新しい教育活動を実践する。現行の英数・英数発展・6年一貫の3つのコース制では3年生にウ)であげる教育活動を実践し、新しい教育活動を共有する。また、授業評価によりPDCAサイクルを確立させ教育活動を行う。
- イ) 発展文理・発展探究クラス共に3年後の進路実現はもちろんのこと、探究活動を通して主体的な姿勢を育み自ら夢や目標を達成する意欲を高める。
 - ・ 発展文理クラスは応用的な内容まで掘り下げた授業を展開する一方で、学習のみならず何事にも深く追求する姿勢を育む。
 - ・ 発展探究クラスは週に1単位「探究」の時間を設け、主体的に課題解決に取り組む活動を通して、目標や夢を持ちその実現に向けて学習意欲や行動力を高める姿勢を育む。
- ウ) 現行3年生はコース制を存続し、以下のような教育を継承する。
 - ・ 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
 - ・ 英数発展コースは、応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。
 - ・ 6年一貫コースは、自分の夢・目標を実現させる「生きる力」を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。※ 生徒評価アンケートにおける「コース満足度」の目標値は4.2以上。(令和3年度 4.2) これを維持できるよう努力する。

(3) 進路指導

- ア) 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するための進路ガイダンスを行う。
- イ) 個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路の探究、相談や支援を行う。
※ 生徒評価アンケートにおける「進路面接等の満足度」の目標値は4.2以上。

【2】 学習面において時代の変化に対応した、「主体的な学び(探究)」を実践し、きめ細かい指導を通して生徒自らの夢や進路を実現するため確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う。

(1) 教科指導

- ア) 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。
- イ) 授業に創意工夫を行い、デジタル機器を使用し、効果的に分かりやすい授業を行う。
- ウ) 基礎学力の向上をめざすため、放課後学習・休暇中の講習や活発な自習室活動を実施する。
- エ) 探究活動(発展探究クラスの「探究」授業含)を通して、生徒自らが課題に向けて考え、協働する力を養い、夢の実現に向け、学習意欲や課題解決能力を高める。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学力向上の意欲」の目標値は4.2以上。(令和3年度 生徒4.3 保護者4.1)と満足度は上昇し、目標値に達した。引き続き目標値を超えるよう努力する。

(2) 人権教育

- ア) 生徒一人ひとりが互いの個性を尊重し合う集団づくりを行う。その中で「心のバリアフリー」推進の動向をふまえ、障がいのある無にかかわらず、多様性を尊重する障がい者理解を推進し、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して指導する。
- イ) いじめ等を未然に防ぐため各学年、担任による日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施するなど生徒との接点を密にする努力を行う。
- ウ) 学年毎にテーマを決め、人権教育を行う。
- エ) 12月の人権週間には人権講演を実施する。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学校のいじめの対応満足度」の目標値は4.0以上。(令和3年度 生徒4.2 保護者3.9)評価が向上しているが、保護者の評価は目標値を下回った。令和4年度には目標値を達成する。

【3】 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて主体性を持った豊かな人格形成を行う。

(1) 生活指導

- ア) 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養うように指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。
- イ) 挨拶運動等を実施し、日常生活での基本的なマナー及び公共施設や交通機関でのマナーの向上に努める。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「教員の規則を知らせる指導」の目標値は4.2以上。(令和3年度 生徒4.4 保護者4.1)昨年に引き続き目標値に達した。

(2) 危機管理と情報公開

- 生徒の安全・安心を優先して危機管理に当たり、私学の有する公の性質と学校教育に果たす役割を考慮して情報を公開する。
- ア) 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識をもち、危機管理マニュアルを作成し安全・安心な学校をめざす。また、災害に備え備蓄品を整える。
 - イ) 情報モラル講演会などにより、スマートフォン、タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。
 - ウ) 学校ホームページ等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。
※ 教員自己評価アンケートにおける「学校安全対策」の目標値は4.3以上。(令和3年度 4.2)であり、昨年同様であるが、令和4年度年度まで目標値に近づくよう努力する。
※ 保護者評価アンケートにおける「学校の情報公開」の目標値は4.3以上。(令和3年度 保護者4.3)と昨年より0.3ポイント上昇した。引き続き、評価を維持する。

(3) 学校行事・部活動や探究活動

- ア) 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。
- イ) 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。
- ウ) 全クラスで取り組む探究活動、発展探究クラスでの「探究」授業を充実させる。また、文化祭・体育会では、生徒会を中心に自主的に活動できる機会にする。
※ クラブ活動や行事の目標値は4.2以上。クラブ活動(令和3年度 4.4)行事(令和3年度 4.4)と高評価である。次年度もこれを維持する。

(4) 課題を抱えている生徒への支援

- ア) 生徒が抱えている問題に対して、支援コーディネーターを中心に生徒相談係が一人ひとりを大切にきめ細かい相談・指導を行う。
- イ) 保護者、ICP(臨床心理研究所)と連携し、生徒の問題解決に支援を行う。
※ 生徒評価アンケートでの「個人面談等の満足度」の目標値は4.0以上。(令和3年度3.9)昨年同様の数値だったが、令和4年度年度には目標値に達したい。

【4】 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献

- ア) 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会とも連携し、文化祭・体育会などの生徒会活動を支援する。
- イ) 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。
※ 保護者評価アンケートにおける「PTA活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和3年度 3.6)と昨年同様その評価は低い。これは、新型コロナウイルスの影響により通常のPTA活動ができなかったためであり、令和4年度は目標値を目指したい。
※ 生徒評価アンケートにおける「生徒会活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和3年度 3.9)と前年度より0.3ポイント下降しており、令和4年度改善に努力する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[(令和4年度)2022年11月実施]	学校協議会からの意見
<p>評価項目:教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行う 評価方法:各項目について、5段階評価で行う 5:大変そう思う 4:どちらかといえば思う 3:普通 2:あまり思わない 1:全く思わない</p> <p>○全体評価 ・「入学して良かったか」の設問に対し、生徒 4.2・保護者 4.2 と昨年に比べ少し下降したが、引き続き高評価ではあるが、分析をしっかりと行い、これからも良い評価を目指す。</p> <p>○学習指導等 ・文部科学省の提唱する「生きる力」を育むため取り入れた主体的・対話的で深い学びであるアクティブラーニングや ICT を利用した授業で生徒の授業に対する取り組みの評価は、教員 4.2、生徒 4.1 となっている。教員は新学習指導要領による改善を熟知しながら、生徒が意欲的に学習できるよう、今後とも研鑽を続けたい。</p> <p>○生徒指導等 ・「基本的生活習慣」の再確認と育成を行いました。教員の自己評価は 4.2 と昨年同様高評価となっている。より一層、子供たちの基本的な生活や活動を援助できるよう努力したい。 ・「いじめ」についての定義が変わり、社会の変化により、価値観の多様化が進んでいる。それに伴い、人権意識が高まり、個々が生きやすい社会が目指される。そんな中、「いじめの対応」についてそれぞれの事象が背景・個々の性格等一つ一つのケースが異なるため、教員の対応にも多面的な見方が必要とされる。教員自身の自己評価は 4.1 と昨年より 0.1 ポイント上昇した。教職員はチームとなり対応に努力し、一人ひとり問題に対して真摯に向き合う姿勢を大切にしている。生徒の評価は 4.0 だが、保護者から見た評価が 3.8 を下回っているのは、面談や子供たちの様子で生徒の声を聴き取る対応に満足していないからと思われる。今後も引き続き、教職員の研鑽を重ねたい。 ・「クラブ活動と多彩な行事」は「実行から学べ」の教育方針のもと、社会性や協調性を養うことに役立っている。人間力の育成に重要な行事やクラブ活動及び人間関係の項目は、教員の評価が 4.3 や 4.4 といずれも高評価である。</p> <p>○学校運営 ・学校運営・学校経営について、昨年同様教員による自己評価は 3.8 で教育内容に比べ評価が低い。昨年に比べ 0.1 ポイント下降している。教員間の相互理解のもと、私学人として少子化に伴う私学経営の危機感を共有し、学校経営計画に沿って教育に専念するよう今後も努力を続けたい。 ・学習に関する評価では教員の自己評価は殆んど 4.0 以上と高い。しかしながら、「学習の遅れている生徒への支援」については 3.8 と昨年度より 0.5 ポイント下降した。少子化や多様化に伴い学習意欲が持ちにくい生徒も多く入学することが予想される。教員が一人ひとりの生徒の実情に合わせて生徒への学習支援について努力できるよう、環境改善や校務のスリム化に努めたい。生徒のあり方に合わせ、より良い指導ができるようにする。 ・教員研修・資質向上に関して、校内研修については探究教育や人権教育など計画的に実施しているが、自己研鑽や研修、またオンライン研修などへの参加はまだまだ少ない状況にある。また、研鑽内容の共有などの機会が持てず、教員の評価も 3.4 と非常に低い。中学校は校務が多岐にわたるため、校務の整理を引き続き課題とし、各教員の資質向上を目指し、積極的に自己研鑽を進めていきたい。</p> <p>【分析】 今年度の学校評価についてはウイズコロナの中、通常の行事や宿泊行事も配慮をしながら、無事に実施することができた。このコロナ禍をプラスに、行事の見直しも進みつつあり、生徒が主体性を持ち、満足できる教育活動を取り戻しつつある。加えて ICT 教育など変化することへの速度が加速でき、学校全体に活気が戻りつつある。 生徒・保護者の学校評価も情報発信などいくつかの課題は残すが、概ね 4.0 に近い評価を得ることになり、日常への感謝を生徒とともに感じるとともに、当たり前を大切に次年度の一層の向上に努めたい。 3年間で向上しつつある ICT を活用した教育や生徒主体型の行事改革など、今後の完成に向けて努力し、より満足いただけるよう教育の質を高めるため、再考の必要な項目や評価の低い項目を注視し、改善の対象にしたい。</p> <p>学校目標 目指す学校像として「変化が加速し、多様な課題解決に対応できるよう、思考力・判断力・表現力を身に着け、心豊かな人間性が育む学校をめざす」という掲題のもと教育活動を行っていきけるよう、伝統を重んじながらも、改革、改善や進歩が必要な事項を改め、向上への努力を続けたい。来年度も周囲を見て行動できる心のやさしい、思いやりのある美しい心を持った生徒を育てたい。そういう心豊かな生徒を育てられるよう、全職員も努力し、取り組んでいきたい。</p>	<p>○ 学校経営計画について きめ細やかで丁寧な対応、指導については評価できる。 入学後の満足度についても概ね期待通りであるが、引き続き生徒の成長に繋がる取り組みを充実させ、より良い学校を目指して欲しい。</p> <p>○ 生徒・保護者による学校評価アンケート結果に対する外部評価 「私学の独自性」として建学の精神「報恩感謝」に則り、先生方が生徒に寄り添い、丁寧な指導をされている。 良い意味で生徒と教師の精神的な距離が近く、話しやすい。 保護者と教師の関係も同様であり、アットホームな印象が強い。 学校の魅力は、教師の魅力に起因し、募集にもかかわらず思う。その点でも大いに評価でき、今後も継続して欲しい。</p> <p>【進路指導】 3年時に「進路説明会」を2回開催されているが、内容にあまり違いを感じられない。形態を変えるなど、今後検討して欲しい。 1,2年時より進路指導されているが、保護者にも共有できれば尚良い。</p> <p>【教科指導】 1人1台のタブレットを効果的に使用し、グループ学習による学び合いなど、アクティブラーニングの実践により学習の定着を図り、効果を上げていることは評価できる。</p> <p>【人権教育】 いじめの形態も、多様化する情報機器(タブレット)や情報モラルの個人差などにより、見えにくくなっているのではないかと危惧する。学校での指導だけでなく、保護者への理解の徹底や強化が必要だと感じる。</p> <p>【危機管理・情報教育】 生徒が1人1台のタブレットを持ち、そのほとんどが家庭でもスマホを所持する時代になり、SNS上でのトラブルがますます心配される。情報モラル講演会を年1回行っているが、頻度を上げてもいいのではないかと考える。 また情報機器(スマホ、タブレット等)については、家庭では保護者の管理下であるという認識を確認し、保護者向けに情報モラル講演会を開催するなど、危機管理について情報を共有する必要がある。</p> <p>【学校行事・部活動・探究活動】 コロナ禍による制限が緩和されるのに合わせ、部活動や宿泊行事など、可能な限り平常時に近い状態で実践できたことは評価できる。 体育会ではドーム開催により天候に左右されないのは良いが、時間の制約により、以前に比べ生徒一人の参加種目が減った。 プログラムの再構成も含め、検討課題である。</p> <p>【生徒指導】 コロナ禍の影響もあり、不登校生徒が増加傾向にあるが、「不登校生徒の保護者の会」が継続され、講演会や懇談会を通し、情報や課題を共有するなどの活動は評価できる。 また「臨床心理研究所(ICP)」や保健室と連携しながら、段階的に生徒対応していることも評価に値する。</p> <p>【PTA活動】 コロナ禍により、PTAとして学校行事への関わりが減り、達成感が少なく、残念である。</p> <p>○ 教員による自己評価集計結果報告に対する外部評価 学習面全般(学習意欲・授業内容)での自己評価は軒並み高いが「学習の遅れがある生徒への支援」については低い。同様に「自己研鑽・研修」に関する評価も低く、多忙さも要因の一つと考えられるため、今後校務の整理等、検討したい。</p> <p>○ 結果 生徒に寄り添い、丁寧な指導をしているとの評価をいただき、またコロナ禍においても、学習指導や行事等において、状況に応じ都度模索しながら最大限の取り組みをしてきたことも評価をいただいた。 探究活動により、課題発見・解決する能力の向上に繋がることへの理解も深めていただけた。 同時に、細かい問題点も指摘していただいたので、今後課題や問題点を整理し、次年度に向け改善し、より求められる学校づくりに向け努力したい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価
令和4年度

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する</p>	(1)私学の独自性	<p>ア. 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践する。</p> <p>イ. 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解を深める。</p> <p>ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。</p>	<p>ア. 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践目標を4.2とする。</p> <p>イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等をわかりやすく説明する。(令和3年度生徒 4.2)</p> <p>ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。(令和3年度生徒 4.2) イ、ウの目標は4.2とする。</p>	<p>ア. 教員の建学の精神・教育理念の理解が定着してきている。(○教員 4.2)</p> <p>イ. 教員がよく理解し、それに基づいて教育を行うことができたが、生徒の評価は下降している。話題に触れる機会を増やし、より丁寧な説明をしたい。(△生徒 3.8)</p> <p>ウ. 生徒指導部は毎月月間目標を設定し、教育方針の啓発に努めることができた。(◎教員 4.3)(1)について概ね高評価で、これを維持する。</p>
	(2)生徒のニーズに対応した教育活動	<p>ア. 授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行う。</p> <p>【1,2年生】</p> <p>イ. 発展探究クラスは、「総合的な探究学習(G-pro)」を取り入れ、探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進路を自ら実現する。</p> <p>ウ. 発展文理クラスは、日々の確認テストや学習目標の設定を通じて、主体的に応用的な内容まで学ばせ、よりハイレベルな進路実現へのニーズに対応する。</p> <p>【3年生】</p> <p>イ. 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。</p> <p>ウ. 英数発展コースは、夏期講習などで応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。</p> <p>エ. 6年一貫コースは、総合的な学習の一貫である「自分プロジェクト」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。</p>	<p>授業評価を検証し、改善し実行します。目標値を4.2以上とします。</p> <p>1,2年生は発展探究・発展文理の2つのクラス編成により、新しい教育活動を行います。また、3年生は、それぞれのコースの特徴を理解し、コースの取組みに満足しているかの設問を行います。新カリキュラムは令和3年度開講であり、それぞれのクラスの理解に努めます。(令和3年度 生徒 4.2 保護者 4.1)</p> <p>全コースの平均 令和3年度 4.1と、それぞれのコース理解が浸透できました。コース制最終年を有意義な教育活動で締めくくります。</p> <p>それぞれの学年の満足度目標値を4.2以上とします。</p>	<p>ア. コースの特徴を理解し、授業評価を検証し、今年度に改善し実行できている。(○教員 4.0)</p> <p>生徒、保護者ともイ、ウ、エ、の全てのコースについての取組みについて理解し満足している。(○生徒・保護者 4.0)</p> <p>(2)は、現在、新クラス制度と旧コース制度の過渡期であり、今年がその最終年であった。教員も変化、対応に挑戦する中、模索部分もあり、自己評価が下降しているが、情報交換を十分にしながら、改革に努力したい。反面、全般的にそれぞれの生徒・保護者の満足度には変化がなく、満足の域にあることは、それぞれの現場での努力の表れかと思われる。今後も理解に努める。(○教員 4.0)</p>
(3)進路指導	<p>ア. 生徒が、自分自ら夢に向かう進路実現ができるように また、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。</p> <p>イ. 自分の将来について主体的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。(1,2年)</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行う。</p>	<p>ア. 生徒の将来を見据え、探究活動を通じて自己発見や進路情報の提供や進路ガイダンス(令和3年度 4.2)を行います。目標は4.2以上とします。</p> <p>イ. 探究活動を通じて、自ら考え、進路選択できる力を養成します。</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっています。(令和3年度は4.2)4.2以上を目標とします。</p>	<p>ア. 情報化社会が進む昨今、保護者、生徒においては進路に関する情報が得やすいため、新しい形の進路ガイダンスに挑戦しており、今後も生徒・保護者が欲しい情報を提供できるよう一層の努力が必要である。(△保護者 3.8 ○生徒 4.1)</p> <p>イ. 探究活動を通じて生徒の主体性を引き出す努力ができている。次年度の進路選択につなげたい。(△保護者 3.8 ○生徒 4.1)</p> <p>ウ. 進路相談は昨年に引き続き高評価であるが、より一層の努力、向上を目指す。(◎教員 4.4)</p> <p>(3)の進路指導は中学校の要であり、これからもデータなどを整理・分析し、進路面談に役立てたい。</p>	

(1)教科指導

ア. 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。

イ. ICT 機器を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指し創意工夫をする。

ウ. 学力の向上と定着をめざすため、早朝学習・放課後学習(自習室活動)・休暇中の講習を実施する。

エ. 自らの課題に向けて考え、協働し、学習意欲を高めるために探究活動を実施する。(1, 2年)

(2)人権教育

ア. 「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行う。

イ. いじめ等の予防、早期発見のため、各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てる。

ウ. 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行う。

エ. 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施する。

ア. 教員によるシラバスに沿った指導、グループ学習や AL を取り入れ、より一層の充実を図ります。目標を 4.2 以上にします。(令和3年度 4.3)

イ. 教員による授業への創意工夫を行い、ICT機器の有効活用を通じ、分かりやすい授業の展開の目標値を 4.2 以上にします。(令和3年度 4.1)
生徒・保護者による「授業は分かりやすいか」には(令和3年度 生徒 4.1 保護者 3.9)との開きがあり、両者の目標値を 4.2 以上に設定します。

ウ. 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっています。(令和3年度 3.8)と 0.2 ポイント評価が下降しました。
教員による生徒の学力向上への取り組みは、(令和3年度 生徒 4.3 保護者 4.1)と向上しており、引き続き4.2以上を目標とします。
生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲は 4.2 を目標とします。

エ. 探究活動を通じて、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現し、様々なことに興味・関心が持て、意欲が得られるようになることを目標とします。

ア. 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践していますが(令和3年度3.8)であり、4.0以上を目標とします。

イ. 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(令和3年度 生徒4.2 保護者3.9)とまだ保護者の評価は低い。目標は4.0以上とします。

ウ. 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践します。(令和3年度4.2) 4.2以上を目標とします。

エ. 人権講演会や道徳的な行事については(令和3年度 生徒4.5 保護者4.1) 生徒の満足度も上昇し現在の人権教育を継続し、目標を4.2以上とします。

ア. 主体的・対話的で深い学びによる新しい学習形態も少しずつ取り入れることができています。(○教員 4.2)

イ. 分かりやすい授業の展開について保護者評価は生徒と比べ低く、目標値に達していない。
(△保護者 3.8 生徒 4.1)
個々の教員による授業研究を推進し、自己研鑽を推奨するなどし、情報を共有していく。
また、ICTリテラシーの向上も目指す。

ウ. 生徒の学力支援に対する教員評価は 3.8 と評価が低くとどまった。(△)

生徒の教員の努力に対する評価は、4.1と一定の評価を得ているが、保護者は 3.9 とやや低い。教員の学習への取り組みについては 4.2 をクリアできた。(○)
教科指導について、生徒一人ひとりの弱点は多岐にわたり、保護者の満足の域には達していないが、引き続き、個々への対応をこまめに行い、学力向上に向けての努力や意欲を伸ばすよう努めたい。

エ. 探究活動が生徒の成長につながるかについては教員の手ごたえは上々である。今後の生徒の成長を図っていきたい。(○ 教員 4.4)

ア. 教員は学校生活すべての活動を通して人権教育を行っていると考えており、その点で評価できる。(◎教員4.3) 実際には人権意識を高めているかについても目標をクリアできた。(○教員 4.1)

イ. 教員のいじめ対応について、面談やアンケートにより未然に防ぐようにしており、少しずつ評価を得ている。(○生徒 4.0 保護者 3.8)より一層生徒の声を聴きやすくする環境づくりに努める。

ウ. 教員の人権意識を高める教育については、0.1 ポイント低下した。次年度に向けて検証したい。(○4.1)

エ. 人権講演や道徳的な行事に関して、特に生徒の理解を得られている。
(◎生徒 4.4 保護者 4.0)

人権教育に関しては高評価でもあり、今まで通り綿密な計画を立て、実施する。
しかし、いじめに関しては、教員の努力とは逆に、生徒、保護者の満足に至らず、引き続き対応、研修を重ねる努力をしたい。

<p>3 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事を通じて豊かな人格形成を行う。</p>	<p>(1)生活指導</p> <p>ア. 個別の問題行動の対応にとどまらず、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。 また、生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも積極的に取り組みます。</p> <p>イ. 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動を実施する。</p>	<p>ア. 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじるは（令和3年度 4.2）と昨年と同じでした。目標は 4.3 以上とします。 生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導（令和3年度 生徒 4.4 保護者 4.1）と高評価です。引き続き 4.2 以上を目標とします。</p> <p>イ. （令和3年度 生徒 4.0 保護者 3.9）です。生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行います。目標値は 4.0 以上とします。</p>	<p>ア. 規則を守らせる指導について教員の自己評価が下がり、逆に生徒評価が高くなっている。（◎生徒 4.3） 校則の見直しなど多様な価値観に対応する変革の時期であるが、指導について教員の共通認識が少しずつつきつつある。（○教員 4.0）</p> <p>イ. 生徒指導部と生徒会を中心に挨拶運動などの活動を続けている。コロナ禍により元気な挨拶にはまだ少し課題が残る。いっそうの啓発を続ける。（△ 生徒・保護者 3.8）</p>
	<p>(2)危機管理と情報公開</p> <p>ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。また、災害に備えて備蓄品を整える。</p> <p>イ. 情報モラル講演会などにより、スマートフォン・タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。 特に SNS、写真撮影等個人情報の公開の危険性、人権面での指導に力点を置きます。</p> <p>ウ. 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。</p>	<p>ア. 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備（令和3年度 4.2）及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策は（令和3年度 4.2）はどちらも良い評価ですが、4.3 以上の目標とします。</p> <p>イ. 情報機器の正しい使い方では（令和3年度 生徒4.3 保護者3.7）と保護者が生徒に対する信頼がまだ低いようです。4.0以上を目標とします。</p> <p>ウ. 情報公開については、保護者の満足度がかなり向上しました。（令和3年度 生徒4.5 保護者4.3）引き続き4.3以上を目指します。</p>	<p>ア. 危機管理マニュアルの整備や学校安全対策は概ね高評価だが、目標値には至っていない。一層安全対策に意識したい。（○ 4.1）</p> <p>イ. スマホ・タブレットなどの使用に関して、今年度も生徒と保護者の見解が大きく分かっている。ICT 教育が進む中、保護者が安心して生徒を信頼し、使用できるように、情報モラル教育の充実を図る。（○ 保護者 3.6 生徒 4.2）</p> <p>ウ. ホームページの充実、SNS による発信に努力し、発信方法を整理し、保護者にも一層満足いただけるよう、努力したい。（○保護者 3.9 生徒 4.4）</p>
	<p>(3)学校行事や部活動</p> <p>ア. 社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励します。</p> <p>イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させます。 文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にします。</p> <p>ウ. 全クラスでさまざまな行事と探究活動を結び付けると共に、発展探究クラスでの「探究」授業を充実させます。（1、2年）</p>	<p>ア. 説明会やガイダンスなどで、部活動への参加を奨励します。（令和3年度 生徒 4.4 保護者 4.0） 4.1 以上を目標とします。</p> <p>イ. 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に考え、行動できる生徒を育てます。（令和3年度 生徒 4.4 保護者 4.1） コロナ禍の終息と共に向上傾向です。4.2 以上を目標とします。</p> <p>ウ. 主体的に活動し、協働し、表現できる生徒を育てます。</p>	<p>ア. クラブ活動については例年高評価である。保護者理解の評価も向上傾向にある。（○保護者 4.0 生徒 4.3）</p> <p>イ. 宿泊行事や体育会・文化祭を形を変えながら実施でき、高評価を得ている。感染症の対策を万全にし、次年度も改革に臨みたい。（◎ 保護者 4.1 生徒 4.3）</p> <p>ウ. 文化祭での 1、2 年生探究発表など生徒が主体的に活動できている。（○）</p>
	<p>(4)課題を抱えている生徒への支援</p> <p>ア. 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行う。 担当を中心に主任、クラブ顧問など多くの教員で情報を共有し、対応します。</p> <p>イ. 問題解決の部署として ICP（臨床心理研究所）の存在の明確化をするとともに、生徒相談係を中心に、相談しやすい環境づくりに努める。</p>	<p>ア. 日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっています。（令和3年度 4.0）目標は 4.2 とします。</p> <p>イ. 個人面談等の満足度は低い。（令和3年度 生徒 4.0 保護者 3.9）4.2 以上を目標とします。</p>	<p>ア. 概ね担任は日直面談を続け生徒の変化を見逃さないよう努力しているが、その目的を教員間で共有し、より丁寧な指導を目指したい。（○ 教員 4.1）</p> <p>イ. 昨年より 0.1 ポイント下降した。面談のあり方の再考し、更なる努力が必要である。（△ 保護者・生徒 3.8）</p>
<p>4 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献</p> <p>保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。</p>	<p>ア. 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援する。</p> <p>イ. 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。</p>	<p>ア. 保護者から見るPTA活動はコロナ禍もあり（令和3年度 保護者3.6）で目標値 4.0に近づけるよう活動を支援します。</p> <p>イ. 生徒から見る生徒会活動は（令和3年度 生徒 3.9）目標値を 4.0 とします。</p>	<p>ア. 今年度も感染予防のため、PTA 活動が制限され十分とは言えなかった。そんな中でも、PTA 役員の努力やアイデアにより最大限に活動をし、0.1 ポイント上昇した。さらに工夫を加え、新たな活動の企画に努力したい。（△ 保護者 3.7）</p> <p>イ. 着実に生徒会活動は活発になっている。生徒主体の活動に近づいているが、まだ生徒自身の評価は低い。より全体に理解を深め充実させたい。（△生徒 3.7）</p>